

第10回学校と地域を結ぶオープンセッション

平成27年7月
「郷育のまち・村上」推進実行委員会事務局

1 目的

- (1) 「郷育」について、今までの取組を振り返り、成果や課題を明らかにするとともに、今後の在り方や進め方を検討し合う。
- (2) 学校教員、保護者、地域の関係者が一堂に会し、「地域の子どもを地域のみんなで育てる」ための取組や体制づくりについて情報交換等を行うことにより、相互に連携したり、協力したりする関係をより緊密なものにしていく。

2 主催

村上市教育委員会
「郷育のまち・村上」推進実行委員会
NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター

3 協力要請団体

村上市小学校長会、村上市中学校長会
村上市小学校教頭会、村上市中学校教頭会
村上市小中学校PTA連絡協議会
村上市地区公民館協力員
各地域まちづくり協議会
村上市青少年健全育成協議会
村上市スポーツ推進員
総合型スポーツクラブ

など

4 日時

平成27年8月6日(木) 午前9時30分から午後4時

5 会場

村上市総合文化会館(全館)

6 参加者

市内小中学校の教員、PTA関係者、NPO関係者、地域団体関係者、
行政関係者等 …… 200人～250人を予定

7 内容

(1) 午前の部：9：30～12：00

① 開会行事、シンポジウム

会場：大ホール

○ 9：30～9：40 開会行事(教育長あいさつ)

○ 9：50～11：20 シンポジウム

テーマ：郷育への提言

～「ここで生きる」ことに自信・誇り・喜びのもてる子どもたち
を育てる「郷育のまち・村上」を目指して～

司会者： 村上市立岩船小学校長 丹後 裕 様

提言者：① 学校の視点から
村上市立塩野町小学校長 名古 善晃 様

② 地域・まちづくりの視点から
都岐沙羅パートナーズセンター理事
大滝 聡 様

③ 社会教育の視点から
NPO法人希楽々ゼネラルマネージャー
渡邊 優子 様

○ 11：20～11：50 議論の整理、指導
指導者：新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課長 伊比 宗宏 様

- ② 子ども遊びの広場 会場：ホワイエまたは会議室、視聴覚室
ア 小学校4年生から6年生、40人から50人の参加を予定。
イ 様々な体験コーナーを設定
………防災避難体験、畳コースターづくり体験、まゆの糸取り、読み聞かせ体験、各種スポーツゲーム、簡単スイーツづくり、かけっこ教室など（一部の活動は午後も実施）

(2) 午後の部：13：30～16：00（受付：13：00より）

会場：公民館ホール、美術工芸室等

交流 ～学校と地域を結ぶ発展講座～

「子どもたちの健やかな成長のために、学校、公民館、関係機関・団体はどのような支援・連携・協力ができるか」

- 13：30～14：30 団体紹介（午前のシンポジウムの要点を紹介し、その後、各団体が紹介を行う。）
- 14：40～15：40 ブース訪問、情報交換
- 15：40～15：50 振り返り
- 15：50～16：00 閉会行事（都岐沙羅パートナーズセンター理事長）

(3) パネル展示（終日、会場：ロビー）

- 子どもたちの健全育成のために活動している団体などを、掲示物で紹介する。
- 各団体は大洋紙1枚の掲示にまとめ、それを展示する。
- 各中学校区郷育会議、公民館、まちづくり関係、青少年健全育成会などに、掲示物の作成と展示を依頼する。

8 その他

(1) 関係者（市教委、推進実行委員会、都岐沙羅、地域コーディネーター等）で運営委員会（10人程度）を組織する。企画・立案、準備、運営、後始末を担当する。

6月2日（火）に、第1回目の運営委員会を開催。

7月3日（金）に、シンポジウムの打合せ会を開催。

(2) 広報等

- ア 5月下旬に、学校関係者を中心に第1次案内を発送。
- イ 6月中旬に、関係者に参加依頼の案内を送付。
- ウ 6月中に、関係機関・団体に協力依頼。

3 学校と郷育とのかかわり

～「平成27年度村上市学校教育の重点」を中心に～

(1) 学校と保護者・地域の願う、育てたい児童・生徒像などを共有

- 保護者や地域とともに歩む学校づくり
→ 各校の学校運営方針やランドデザイン

(2) 特色ある郷土学習

- 「郷育プログラム」
- 郷土の優れた伝統、文化、素材、産業、歴史、人物等について体験を通して学ぶ、特色ある郷土学習の工夫・改善。

(3) キャリア教育

- 小学校の職場見学、中学校の職場体験等、多様かつ魅力ある大人と接する活動及びその事前指導、事後指導の充実。
- 「新潟っ子プラン」アンケートシート等により、取組の評価・改善。
- 「新潟っ子プラン」及び自校の「郷育プログラム」をもとに、各学年で取り組む内容や時期、教科等を示したキャリア教育年間指導計画の整備。
- キャリア教育は、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てること。それは、児童生徒が、自分が自分として生きるために、「学び続けたい」、「働き続けたい」と強く願い、それらを実現させていこうとする姿として捉えられる。この姿の育成を目指した教育活動が、キャリア教育。
キャリア教育は、学校全体の中で様々な教育活動を通して実践されていく。

(4) 幼保小中の連携～12年間の見直し～

- 幼児児童生徒の実態を踏まえ、「幼・保・小・中連携プログラム」の見直し。
- 幼稚園・保育園、小学校、中学校の三者（四者）の情報共有、緊密な連携。

(5) 地域の教育力を生かす、地域との連携を密にするための仕組みづくり

ア 地域コーディネーター

イ 学校支援ボランティア（学校の教育活動等の様々な分野の中で、ボランティアの気持ちをもって協力したり、支援したりしてくださる保護者や地域の方々など）

ウ 地域連携担当教員

※ 地域コーディネーターと地域連携担当教員の協働体制を確立し、多様な体験活動を実施。

エ 各中学校区郷育会議事務局

※ 「地域の子どもを地域のみinnで育てる」取組の推進に向けて、「郷育会議」を核とした実効ある行動連携の体制づくりを。

「郷育のまち・村上」について

村上市教育委員会

1 「郷育」に込められた願い

～これからの村上市を担う人材を育てたい～

(1) 郷育とは「心根を育てる教育」

「心根を育てる教育」とは、「地域を感じ、その良さを知り、地域を愛し、心の拠り所としての故郷をもち、なお、実力を十分に備えて、活躍できる人材」を育てること。

(2) 活躍できる人材とは

- 村上の地で活躍する、また、地域外で活躍する人材。
- ときに地域（郷関）を出でたとしても、やがて地域（郷関）に戻り、活躍する人材。

(3) 郷育は、当市の教育の全体像

「郷育」は、村上市が進めようとしている教育の全体像を示している。学校教育のみならず、家庭教育、乳幼児の保育や教育、社会教育、文化・芸術・芸能活動、スポーツ活動なども視野に入れている。村上市で取り組んでいる各年層段階、各分野における教育活動、学習活動等について、これらの拠り所になるのが「郷育」。

2 「地域の子どもを地域のみんなで育てる」を中心に

～当市の児童・生徒の健全な発達・成長が促されるよう、市民や地域が一体となって子どもたちのための取組や活動を進めていこう～

(1) 当市の子どもたちへの願い

- ア 郷土に愛着と誇りをもつ子ども
- イ 郷土に貢献する子ども
- ウ 自らの進路を切り拓く子ども

(2) 『新村上市・教育基本構想』（平成20年2月）では

ア 目標1

「ここで生きる」ことに自信と誇りをもち、自らの進路を切り拓いていくことのできる実力（知力、気力、体力、徳性）を備えた子ども

イ 『新潟県教育振興基本計画』（平成26年4月、新潟県・新潟県教育委員会）

ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり

(3) 「郷育会議」の役割と期待

- ア 「郷育」を推進していくために、「郷育会議」を組織し、その活動に期待。
- イ 「郷育会議」は、中学校区を単位として、保護者、教職員、地域の関係者や関係機関等で組織された組織。「郷育会議」は、「地域の子どもを地域のみんなで育てる」ための話し合いや各種の催し物、行事等を実施していく。
- ウ 「郷育会議」は、子どもたちの健やかな成長について、市民や地域ぐるみで考え、実践していく中心的な役割を果たすことが期待されている。

(4) 4つの取組

ア 学校支援活動の充実

- 学校の教育活動等の充実を目指し、地域の教育力を学校の教育活動等に大いに生かす。
- 地域コーディネーターを中心とした学校支援のボランティア体制を整備するとともに、保護者や地域の学校に対する支援活動を進めていく。

イ 学校外活動の充実

- 放課後や休日などに学校以外の場で行われている、子どもたちの学習活動、文化・芸術・芸能活動、スポーツ・レクリエーション活動等を充実させる。
- 上記のために、地域や関係機関・団体等はどのような協力や支援ができるのかについて、検討したり、提案する。

ウ 学社民連携活動の充実

～学：学校、社：社会教育、民：保護者や地域の方々～

- 子ども・保護者・地域住民・学校等が連携した活動を検討し、実施し、支援していく。
- 学校と社会教育・スポーツ活動・文化活動、また住民が一体となって取り組む教育活動を検討し、実施し、支援していく。
- 幼・保・小・中が連携した教育活動を検討し、実施し、支援していく。

エ フォーラム・啓発活動の充実

- 学校、保護者や地域の人たちが期待する児童・生徒の姿や育成のための取組について、検討したり、共通理解を図ったりする。
- 各校の様々な教育活動が、幼保小中12年間の積み重ねと発展を見通したものになっているのかについて検討したり、共通理解を図ったりする。
- 幼保小中12年間の積み重ねと発展を見通した取組や活動を実施する際、家庭や地域はどのような協力・支援ができるのかについて検討したり、共通理解を図ったりする。

(5) 「郷育のまち・村上」を目指して

～子どもたちとともに、大人たちも自分たちの住む村上（地域）が良いところだ
捉え、さらに良くしたいという願いや思いもっている「まち」～

- ア 子どもたちが健やかに成長する「郷育のまち・村上」
- イ 家庭、学校、地域が緊密に連携・協働している「郷育のまち・村上」
- ウ 住民の方々の生涯学習が充実している「郷育のまち・村上」
- エ 地域の教育力が高く、地域コミュニティが活性化している「郷育のまち・村上」